

## 研究業績一覧

長 有紀枝

### 1. 学位論文

修士論文：「現代日本のマイノリティ、アイヌーその政治生活」1990年3月早稲田大学大学院政治学研究科

博士学位論文：「スレブレニツァ・ジェノサイド：冷戦後のジェノサイドへの介入をめぐる考察」2007年6月東京大学大学院総合文化研究科

### 2. 著書

#### 【単著】

- ・ 『スレブレニツァ あるジェノサイドをめぐる考察』（東信堂、2009年）
- ・ 『入門 人間の安全保障－恐怖と欠乏からの自由を求めて』（中央公論新社、2012年）
- ・ 『入門 人間の安全保障－恐怖と欠乏からの自由を求めて 増補版』（中央公論新社、2021年）
- ・ 『地雷問題ハンドブック』（自由国民社、1997年）

### 3. 編著

- ・ 『スレブレニツァ・ジェノサイド 25年目の教訓と課題』（東信堂、2020年）

### 4. 単行本所収論文

- ・ 「平和とSDGs－新型コロナ禍のSDGsを支える平和と正義、強固な行政組織」野田真里編『SDGsを問い直す－ポスト/ウィズ・コロナと人間の安全保障』（法律文化社、2023年）216-232頁。
- ・ “Chapter VII “Srebrenica and ICTY”, in Independent International Commission of Inquiry on the Sufferings of All Peoples in the Srebrenica Region between 1992 and 1995, *Concluding Report*, 2021, pp.601-647.
- ・ 「スレブレニツァ事件を再構築する - 認定事実としてのスレブレニツァ事件と再発予防の処方箋」長有紀枝編『スレブレニツァ・ジェノサイド 25年目の教訓と課題』（東信堂、2020年）5-45頁。
- ・ 「ボスニア紛争における暴力－民族浄化とジェノサイド、性暴力」柴宜弘・山崎信一編『ボスニア・ヘルツェゴヴィナを知るための60章』（明石書店2019年）82-86頁。
- ・ 「戦争犯罪人を裁く－旧ユーゴスラヴィア国際刑事裁判所（ICTY）とボスニア」柴宜弘・山崎信一編『ボスニア・ヘルツェゴヴィナを知るための60章』（明石書店、2019年）194-198頁。
- ・ 「解説 ユーゴスラビア人あるいはボスニア人としてのオシム」木村元彦著『オシム 終わりなき闘い』（小学館、2018年）318-326頁。
- ・ 『『人間の安全保障』概念を外交にどう活かすか』、東大作編『人間の安全保障と平和構築』（日本評論社、2017年）181-201頁。
- ・ “The Growing Role of NGOs in Disaster Relief and Humanitarian Assistance in East Asia”, in Edited by Rizal Sukma and James Gannon, *A Growing Force: Civil Society's Role in Asian Regional Security*, Japan Center for International Exchange, 2013, pp.66-89.

- ・ “Evolving Japanese humanitarianism”, M. Hirono and J. O'Hagan(eds.), *Cultures of humanitarianism: Perspectives from the Asia-Pacific*, Department of International Relations, Australian National University, 2012, pp.29-32.
- ・ 「平時の平和を再定義する—人道支援と「人間の安全保障」の視点から」、日本平和学会編『平和を再定義する：平和研究第 39 号』（早稲田大学出版部、2012 年）49-67 頁。
- ・ 「国際法と NGO」、美根慶樹編『グローバル化・変革主体・NGO-世界における NGO の行動と理論』（新評論 2011 年 6 月）181-239 頁。
- ・ 「スレブレニツァで何が起きたか」、石田勇治・武内進一編『ジェノサイドと現代世界』（勉誠出版、2011 年 3 月）225-248 頁。
- ・ 「国際 NGO の活動と難民・国内避難民の人権」、齊藤純一編、『講座 人権論の再定位第 4 巻 人権の実現』（法律文化社、2011 年 1 月）239-259 頁。
- ・ 「地雷対策」、内海成治・中村安秀・勝間靖(編)『国際緊急人道支援』（ナカニシヤ出版、2008 年）179-199 頁。
- ・ 「NGO の視点からみた民軍関係の課題」、上杉勇司・青井千由紀編『国家建設における民軍関係 破綻国家再建の理論と実践をつなぐ』（国際書院、2008 年）171-185 頁。
- ・ 「地雷禁止条約の弱点を補完する NGO の役割—ICBL と「ランドマイン・モニターレポート」を事例に」金敬黙・福武慎太郎他編『国際協力 NGO のフロンティア』（明石書店、2007 年）237-262 頁。
- ・ 「ネットワーキングとパートナーシップの強さ：地雷禁止国際キャンペーン（ICBL）を事例に」小林正弥・上村雄彦編『世界の貧困問題をいかに解決できるか「ホワイトバンドの取り組みを事例として」』（現代図書、2007 年）93-102 頁。
- ・ 「NGO の視点からみた民軍関係—NGO にとって民軍関係が意味するもの—」上杉勇司編『国際平和活動における民軍関係の課題』（広島大学平和科学研究センター、April2007）129-144 頁。
- ・ 「第 1 章：危機管理・安全管理とは何か」「第 5 章：人道支援とは」「第 7 章：倫理規定」、NGO の危機管理・安全管理研修助言委員会編『NGO の危機管理・安全管理ガイドライン』（特定非営利活動法人国際協力 NGO センター、2007）11-18 頁、69-86 頁、107-120 頁。
- ・ 「民軍協力と NGO」、功刀達朗・内田孟男編著『国連と地球市民社会の新しい地平』（東信堂、2006 年）303-317 頁。
- ・ 「人道援助における NGO の活動：その役割、限界と可能性」、広島市立大学広島平和研究所(編)、『人道危機と国際介入-平和回復の処方箋』（有信堂、2003 年）、113-140 頁。

## 5. 雑誌所収論文

- ・ 「独立研究科と社会デザイン学をめぐる 20 年」IDE 大学協会『IDE 現代の高等教育—NO.648 人文社会系大学院修士課程の可能性』2023 年 2~3 月号、31 - 34 頁。
- ・ 「ウクライナ戦争を見る視点—国際法と人間の安全保障から」『歴史地理教育』2023 年 1 月 No.949 4-9 頁。
- ・ 「さらなる難民危機と国際社会」『国際問題』（日本国際問題研究所）2022 年 10 月 No.709 37-49 頁。
- ・ 「日本から『難民』支援を考える」『生活協同組合研究』（生協総合研究所）2022 年 10 月号 Vol.561 30-39 頁。

- ・ 「難民危機で試される人間の安全保障」『中央公論』（中央公論新社）2022年8月号、78-85頁。
- ・ 「人道危機からみるウクライナ情勢」『世界』（岩波書店）959号 2022年7月号、190-198頁。
- ・ 「ボスニア・ヘルツェゴヴィナの平和構築再考ー Dayton 和平合意 25 年後の教訓」、国際安全保障学会『国際安全保障』第 50 巻第 1 号 2022 年 6 月、74-94 頁。
- ・ 「プーチン「ジェノサイド認定」の実効性と日本の役割」『Foresight フォーサイト』（新潮社）2022 年 5 月 20 日。
- ・ 「エルデモヴィチとタディチの物語」『JAIR Newsletter』日本国際政治学会 NO.163 April 2020, 1 頁。
- ・ 「死者を記憶するーボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争の犠牲者をめぐって」『Social Designer』Vol.30 立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科、2018 年、8 頁。
- ・ 「難民が来ない国の難民鎖国」『世界』（岩波書店）915 号 2018 年 12 月号、122-131 頁。
- ・ 「旧ユーゴスラビア戦犯法廷が遺したもの-24 年の正義と分断」『世界』（岩波書店）905 号 2018 年 3 月号、216-226 頁。
- ・ 「21 世紀の難民問題」日本国際問題研究所『国際問題』2017 年 6 月 NO.662 1-4 頁。
- ・ 「人道支援における『独立』概念をめぐる一考察」日本赤十字国際人道研究センター『人道研究ジャーナル Vol.6』（東信堂 2017 年）40-54 頁。
- ・ 「難民・国内避難民と内戦と」、広島市立大学広島平和研究所『広島平和研究』2017 年 3 月第 4 号 Vol.4 5-12 頁
- ・ 「スレブレニツァで考えたこと-ボスニア紛争、Dayton 和平合意が問いかけるもの」『世界』（岩波書店）877 号 2016 年 10 月号、103-111 頁。
- ・ 「難民対策の根本に置くべき「人間の安全保障」の視点」、朝日新聞出版『Journalism』2016 年 1 月号 no308、37-44 頁。
- ・ 「災害と人間の安全保障 - 東日本大震災の経験から」、『地域研究』 Vol.15 No.1、2015 年 4 月 30 日刊 121-136 頁。
- ・ 「スレブレニツァ・ジェノサイドを検証する」、日本の戦争責任資料センター『季刊戦争責任研究』2008 年春季号（第 59 号）、18-25 頁。
- ・ "The Role of Japanese NGOs in the pursuit of human security : limits and possibilities in the field of refugees", *Japan Forum*, Volume 15, Number 2, 2003, pp. 251-265.
- ・ 「イラク戦争と対人地雷の廃棄完了」、『世界と議会』、2003 年 6 月号、19-27 頁。

## 6. その他報告・コラム・辞典など

- ・ 「人間の安全保障」「ジェノサイド（集団殺害）・人道に対する(犯罪)」日本平和学会編『平和学事典』（三省堂、2023 年）。
- ・ 「人間の安全保障とウクライナ危機」『現代用語の基礎知識 2023』（自由国民社、2023 年）50 頁。
- ・ 「ウクライナ避難民」『現代用語の基礎知識 2023』（自由国民社、2023 年）51 頁。
- ・ 「コラム 7 スレブレニツァ今昔」柴宜弘・山崎信一編『ボスニア・ヘルツェゴヴィナを知るための 60 章』（明石書店、2019 年）199-201 頁。
- ・ 「地雷禁止国際キャンペーン（ICBL）」広島市立大学広島平和研究所編『平和と安全保障を考える事典』（法律文化社、2016 年）317-318 頁。

- ・ 『サニーちゃん、シリアへ行く』 絵：葉祥明、文：長有紀枝（自由国民社、2016年）
- ・ 「オタワ・プロセス」,「地雷議定書」,日本軍縮学会編『軍縮辞典』（信山社、2015年）57-58頁、250-251頁。
- ・ 「第59章日本のNGOの活動」、柴宜弘・石田信一編著『クロアチアを知るための60章』（明石書店、2013年）335-339頁。
- ・ 「コラム③ 国際平和活動における人道 NGO 民軍の連携アプローチについて」、山本慎一、川口智恵、田中(坂部)有佳子編著『国際平和活動における包括的アプローチ - 日本型協力システムの形成過程』（内外出版、2012年）、頁。
- ・ 「コラム2 ユーゴスラヴィア紛争と日本のNGOの活動」、柴宜弘編著『バルカンを知るための65章』（明石書店、2005年）189-190頁。
- ・ 「対人地雷と平和構築～アフガニスタンの地雷対策におけるわが国の貢献を事例に」、財団法人日本国際問題研究所・平成15年度外務省委託研究報告書『紛争予防』、2004年、43-64頁。
- ・ 「アンネを友達にもつこと～『人道的』想像力を育むために」、財団法人2001年日本委員会、【21世紀への提言】第15回懸賞論文受賞論文集『21世紀の教育を考える』、2004年、16-20頁。
- ・ 「イラク戦争と対人地雷の廃棄完了」、『世界と議会』、2003年6月号、19-27頁。
- ・ 「私たちが目指すものは？ 条約の普遍化か、条約の完成度を高めるのか」、『JCBL ニュースレター』、地雷廃絶日本キャンペーン（JCBL）、2003年2月第24号、3-4頁。
- ・ 「除去作業における重機の限界と可能性および不発弾の脅威」、外務省(編)『対人地雷の探知・除去技術開発のためのアフガニスタン政府調査団報告書』2002年、30-37頁。
- ・ 「国際支援が届かない『見えない難民』」、『エコノミスト』、2001年11月27日号。
- ・ 「旧ユーゴ紛争における救援活動の特殊性」、難民を助ける会(編)『スルツェ ころろ ～ 旧ユーゴ紛争と戦争トラウマ NGOの挑戦』、1998年、17-37頁。
- ・ アムネスティ・インターナショナル日本支部人権講座講演録「紛争地での緊急難民支援」、アムネスティ・インターナショナル日本支部(編)『難民からみる世界と日本』（現代人文社1998年）48-81頁。
- ・ China report for *Landmine Monitor Reports*, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, and 2008, International Campaign to Ban Landmines.
- ・ 「対人地雷問題 リポート 2003 ～ 5年目を迎えた対人地雷禁止条約—いまなお多い未締約国」、『現代用語の基礎知識 2004』（自由国民社、2004年）、1385頁。
- ・ 報告 地雷に関する東京セミナー「もっと現場の声を」、『JCBL ニュースレター』、地雷廃絶日本キャンペーン（JCBL）、2004年4月第29号、3-4頁。
- ・ 「対人地雷問題リポート 2002」、『現代用語の基礎知識 2003』（自由国民社、2003年）。
- ・ 崩される平和・破壊されゆく人間性、「目を覚ましていること」、『あけぼの』、聖パウロ女子修道会、2003年7月号、14頁。
- ・ 「心のスイッチを切らないで」、『教育いばらき』、茨城県教育委員会、2002年、6頁。
- ・ 「対人地雷問題リポート 2001」、『現代用語の基礎知識 2002』（自由国民社、2002年）180頁。
- ・ 「対人地雷問題レポート 2000」、『現代用語の基礎知識 2001』（自由国民社、2001年）4頁。
- ・ 茨城県特集 県立高入試問題と解答「入試を終えた皆さんへ 最大限自分らしく」、読売新聞、2001年3月7日。
- ・ 「地雷問題マップ」、『現代用語の基礎知識 1998』（自由国民社、1998年）、4-6頁。

- ・ NGO第一線 続・異文化との接点で「戦乱の中で得たもの」、『世界週報』、第 33 号、1996 年 6 月 11 日号、42-43 頁。
- ・ エッセイ 戦時下の人道援助 「言葉は無効 行動で信頼を」、『外交フォーラム』、1996 年 5 月号（通巻 92 号）、68-72 頁。
- ・ 「私が見た旧ユーゴ紛争」、『週刊金曜日』、第 33 号、1994 年 7 月 8 日号、26-31 頁。

## 7. その他編著・共著

- ・ 在日インドシナ難民奨学金給付学生文集『二つの祖国 二つの故郷—アイデンティティの危機を越えて』、難民を助ける会、1993 年
- ・ 吹浦忠正・柳瀬房子・長有紀枝（編著）『地雷をなくそう』（自由国民社、2000 年）

## 8. 主な学会・研究会報告

《所属学会》

国際法学会、日本国際政治学会、人間の安全保障学会（JAHSS）、日本平和学会、日本軍縮学会、社会デザイン学会、国際ボランティア学会

- ・ 「人間の安全保障と日本外交における『価値』の再検討」日本国際政治学会 2022 年度研究大会、仙台国際センター、2022 年 10 月 28 日
- ・ “Assessing the legacy of the International Criminal Tribunal for the former Yugoslavia (ICTY) from the viewpoints of R2P and POC”、人間の安全保障学会第 7 回研究大会、立命館大学、2017 年 11 月 4 日
- ・ 「国連と NGO・非国家主体との交錯にみる変容と現在」、国際法学会 2015 年度年次大会、名古屋国際会議場、2015 年 9 月 19 日
- ・ 「人道と『人間の安全保障』の課題からみる日本の ODA—その評価と課題—」日本国際政治学会 2014 年度研究大会、福岡国際会議場、2014 年 11 月 16 日
- ・ “Japan's triple disaster and relief cooperation, Disaster relief cooperation among the Asia nations” Asia Economic Community Forum, Seoul, December 2011
- ・ “Five months after 3.11: Japan's triple disaster and the challenges of Japanese civil society”, Australian National University, College of Law, 9 August, 2011
- ・ 「ICTY の遺産—ICTY は旧ユーゴの和解と安定に何をもたらしたか」、シンポジウム「東欧地域研究の現在、そして未来への展望」東京大学、2010 年 1 月 9 日
- ・ 「移行期正義の現状と課題：国連旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所（ICTY）とスレブレニツァ事件を事例に」、 「コンフリクトの人文科学」セミナー 第 33 回、大阪大学グローバルコラボレーションセンター、2009 年 7 月 9 日
- ・ “Srebrenica and Intervention of International Community”, United Nations University, Policy Forum on Sustainable Peace and Development, 26 June, 2009
- ・ 「スレブレニツァ・ジェノサイドと国際社会の対応」、講演会 Peace Colloquium シリーズ、「国際人道法の最前線」、ICU 平和研究所、2009 年 5 月 26 日

- ・ “Reconstruction of civil society after 1945 and the current trend among the Japanese humanitarian NGOs”, Symposium “Civil Society in Germany and Japan : Concepts and Practices”, Martin-Luther-Universität Halle-Wittenberg , 10 October, 2008
- ・ 『人間の安全保障』の理論と実践を結ぶ～平和構築・人道支援の現場における『人間の安全保障』、人間の安全保障コンソーシアム、中部大学、2007年9月22日
- ・ 「スレブレニツァをめぐる考察—ICTY 判決とジェノサイド研究：歴史学的アプローチの違いをめぐって」、日本平和学会 2006 年度秋季研究大会、山口大学、2006 年 11 月 11 日
- ・ 「人道援助と中立～ハンナ・アーレントをめぐるロニー・ブローマンの議論から」国際ボランティア学会第 6 回大会、大阪大学、2005 年 2 月 19 日

## 9. 研究助成（科学研究費補助金）

### 《研究代表者》

- ・ 基盤研究 C（一般）令和 2～4 年度  
【研究題目】「ジェノサイド後の分断社会における和解と共生の可能性 - スレブレニツァを事例に」
- ・ 基盤研究 C（一般）平成 29～31 年度  
【研究課題】「ICTY 判決とジェノサイド後の社会の相克—スレブレニツァを事例として」
- ・ 研究成果公開促進費・学術図書平成 20 年度  
【研究課題】『スレブレニツァ』の刊行 東京大学大学院総合文化研究科の博士学位論文『スレブレニツァ あるジェノサイドをめぐる考察』として東信堂より 1000 部出版した。（500 部増刷）

### 《研究分担者》

- ・ 基盤研究 B 2021～2026 年度  
【研究課題】「旧ユーゴスラヴィア地域における民族を超えた文化の学際的研究：紛争後 30 年を経て」
- ・ 学術変革領域研究 A 2020～2024 年度  
【研究課題】「移民・難民とコミュニティ形成」
- ・ 基盤研究 A（一般）平成 26～28 年度  
【研究課題】「中国・インド大国化とアジア—内政変動と外交変容の交錯」
- ・ 基盤研究 A（一般）平成 23～25 年度  
【研究課題】「広域アジアの市民社会構築とその国際政治的課題」
- ・ 基盤研究 C（一般）平成 23～25 年度  
【研究課題】「紛争後市民社会支援の課題と展望」

以上